

1F-14 分子生物学は陰謀論を超えられるか –
 「異端の生命科学者」この指とまれ！
 Molecular biology beyond conspiracy theories

開催日時： 19:15 ～ 20:30 (75 分)

会 場： 第 14 会場 (パシフィコ横浜 会議センター 4F「419」)

オーガナイザー：新田 剛 (東京理科大学)、掛谷 英紀 (筑波大学)

COVID-19 の流行による世界的な混乱期には、いわゆる「陰謀論」や「異端の説」として専門家から顧みられなかった言説が多くあった。分子生物学の分野も例外ではない。新型コロナウイルスは遺伝子操作によって作られ、研究所から流出した可能性は？ mRNA ワクチンは COVID-19 に対する集団免疫を実現できないのでは？ 副反応は過小評価されていないか？ 科学の本質は従前の知識や常識を疑い、論理的または実験的に検証し、間違いがあれば修正してゆくことにある。2025 年現在、海外では「コロナ禍」の科学・医療政策や専門家の言説に対する検証や反省が進められている。米国では 2020 年から主流の見解に異を唱え、当時の NIH 所長コリンズから「異端の疫学者」と呼ばれたバタチャリア博士が NIH 所長に就任した。博士は 2024 年にコリンズと直接面会したとき、彼から謝罪の言葉を受けたと語っている。日本の生命科学者も腰を据え腹を割って議論すべきではないか。それこそが真の意味で公衆衛生や安全保障や健全な科学の未来のために重要であるはずだ。本フォーラムでは昨年を引き続き、COVID-19 対策を生命科学の観点から検証・総括することをめざす。

19:15～19:30 宮沢 孝幸 (京都生命科学研究所)
 「本当の専門家はなぜ黙ったのか」

19:30～19:45 掛谷 英紀 (筑波大学・システム情報系)
 「コロナ禍で科学を貫いた人々」

19:45～20:00 新田 剛 (東京理科大学・生命医科学研究所)
 「科学は異端を奨励する唯一の信仰である」

20:00～20:30 ディスカッション

豊田 哲也 (福祉村病院長寿医学研究所)、掛谷 英紀、新田 剛、宮沢 孝幸